

鹿島市総合教育戦略会議（第6回） 議事録（概要版）

1 開催日時 平成27年11月4日（水）14時30分から15時55分まで

2 開催場所 鹿島市役所 3階 庁議室

3 出席者等

- ・法定構成員 樋口市長、田中教育委員会委員長、江島教育委員会教育長、中島教育委員会委員、木原教育委員会委員、田代教育委員会委員
- ・市長部局 藤田副市長、橋村総務部長、打上市民部長、大代総務課長兼人権・同和対策課長、橋村福祉事務所長、事務局（総務課職員 江頭、原田）
- ・教育委員会部局 染川教育次長兼教育総務課長、澤野生涯学習課長、藤家教育総務課課長補佐、永石生涯学習課長補佐兼文化スポーツ係長、加田生涯学習課主査、江島生涯学習課主査
- ・外部関係 なし
- ・傍聴 1名

4 協議又は調整した事項（確認事項含む。）

- (1) 第5回鹿島市総合教育戦略会議（10/1開催分）の議事録素案について
- ・議事録素案の内容を確認。

(2) 文化・スポーツ

5 出席者の発言のとおり

5 出席者の発言

司会：橋村総務部長

1 開会（橋村総務部長）

2 市長あいさつ

樋口市長 一つだけ報告しておきますと、全部の小中学校のPTAの皆さんとの懇談会が終わりまして、ある程度考え方が整理をされて、事務的にどういう意見をこの会で申し上げるかということを整理しているところでございます。市民の意見を反映させるという立場から色々お話をしたいと思います。それから今日の議題ではございませんけど、一体我々の大綱はどういうふうにしたらいかなということも含めて御検討を頂く、御検討と言うほどでもないですが、頭の整理をして

おいていただければいいなあと思っております。

3 確認事項

(1) 第5回鹿島市総合教育戦略会議（10/1開催分）の議事録素案について

橋村総務部長 確認事項といたしまして、前回の総合教育戦略会議の議事録の素案ですけれども、お目通しいただけましたでしょうか。（「はい」という発言あり）よろしいでしょうか。（「はい」という発言あり）ありがとうございます。

4 協議事項

(1) 文化・スポーツ

（大代総務課長説明 子どもの文化：就学未満（保育所における獅子、和太鼓、一声浮立などの取組）、小中学校（学習指導要領や鹿島市学校教育基本方針に基づいた郷土史の学習と浮立面作りといったふるさと学習、芸術鑑賞、文化祭、コンクールへの参加などの取組）、学校以外（社会教育事業、地区公民館事業、エイブルでの文化事業、市民図書館事業、子どもクラブなどによる地域の伝承芸能への参加、文化団体サークル） 鹿島市の文化（文化の振興及び文化財の保護、文化に関する組織、主な行事、関連施設）についての説明）

- ・地域によって濃淡はあるが、学校での取組から言うと指導者によって全然対応が違うという。良い先生だったら良い成績をとって、先生が変わったらガラッと変わったりするから、先生の配置について注文を付けることができるのかという話。もう一つが家に帰ったらクタクタになって宿題もしないで寝ると、それは主にスポーツだと思うが文化も同じで、評価が高いグループほどそうなんじゃないかという話。
- ・最初の指導者によって違うんじゃないかというのは、例えば小学生で言えば図画工作、理科・社会の研究発表とかで現実にそれは出る。
- ・学校からの色々な作品応募を募った際の出品や表彰の一覧リストを見ていても、その傾向というのは出ていて、どこどこの学校は全然名前もあがらないというのは感じていた。それはやっぱり指導者の濃淡によるところはあるだろうという気はする。
- ・やっぱり指導者が言う方に傾いていく。
- ・この前も良い先生を鹿島に集めればいいみたいな話が出ていたが、鹿島ばかりでそういう訳にはいかないだろう。
- ・同じ学校に得意な先生がいるので、習ったりして、切磋琢磨して技を磨いていく方法しかない。教科等部会での研修会があるので、結局技を盗むしかない。
- ・地域の理解、熱意もものすごく影響してくるのではという気はする。
- ・それはあると思う。鹿島には先程説明の中にもあったようにマイスターがいて、学

校に直接勧誘していただいている。他にもそれぞれの場所で地域の方に協力していただいてもらって、これは非常にありがたいと思う。

- ・中学校の文化部活は吹奏楽。それ以外にどういうものがあるのか？
- ・西部中での美術部。西部中は生徒数が多いから、それもできる。東部中は少ないから、逆に部活を減らした方がいいという声がある。
- ・文化部が吹奏楽以外に西部中の美術部しかないというのは意外。
- ・それは人数なのか、先生がいないのか？
- ・両方。希望がないということもある。東部中で美術部ができないかという保護者からの申し入れがあった時期はある。指導者がということで結局はできなかった。できるだけ部活には複数体制で臨みたいというのがある。そうすると教員の数がギリギリになってしまう。特に運動部活はそれをしとかなないと何かあった時に大変なことになる。
- ・そうすると文化面は学校よりも外のクラブ活動となるのか？
- ・本当は文化面での受け皿も学校にあった方が良くと思う。ただ今言われたように対外的な試合がある部活になってくると、メンバーが揃わないというような人数になってしまって、今の3倍ぐらいいた時の人数のままの部活動の数が残っている。
- ・外での文化活動で子ども達は何に参加しているのか？
- ・書道、ピアノ、スイミング、卓球など。
- ・各学校にピアノはあるのか？クラブ活動がなかったら誰が弾くのか？
- ・音楽の先生。
- ・生徒も弾く。
- ・生徒は結構ピアノを外で習いに行っている。
- ・生徒が卒業式で伴奏をしている。
- ・中学校で合唱コンクールを毎年するが、伴奏者はほとんど生徒、女子が多い。
- ・子ども達の外での文化活動と言ったら、子どもクラブなんかは伝承芸能の中心になるのか？
- ・伝承芸能に子どもはどれぐらい入っているか、数は掴んでいないが入っている。
- ・子ども達の伝承芸能への参加は、一つ目が子どもの数が減っている、二つ目には色々お稽古事に通わないといけないということがあって、伝承芸能への参加というのがじり貧になるのではと思う。でも大事なことで、小さな時から馴染ませとかなないと大人になってからでは、一から体で覚えるということができないようになってしまう。
- ・保育園の保育士が来て、区の浮立の曲をとって持って行かれた。その区は後継ぎがないようになって途絶えている状態だけど、その保育園には残っているという状

態。その地域では譜面は分からないが、その保育園はちゃんと聞いて音符にしてあった。ただ実際回る時、今は他の区の方達の方達を加勢を受けたりはしている。

- ・それは一番つらい。
- ・いつまでどこまで続くのか。
- ・昔の伝承芸能はそういう文書での引き継ぎというのがなくて、指の動き体の動きで覚えこむということでしょうから、それは小さか頃から体に覚えこませないといけないということになってしまう。
- ・北鹿島の方が自分で横笛を制作されているということで作られた笛を学校と地域の伝承芸能があるところに寄付をしたいという申し出があっている。
- ・これもありがたいこと。

(スポーツのことも議題に加える。)

(大代総務課長説明 スポーツ基本法の理念、子どものスポーツ(就学未満(幼稚園保育所における体操遊びや外遊びプール遊び、スポーツ合宿での交流)、小学校期(小学校(体育、昼休み活動、運動会)、スポーツ少年団)、中学校期(中学校(保健体育、体育大会、クラスマッチ、部活)、クラブ化)、学校以外(体協スポーツライフ鹿島、地区運動会、地・市子連)、鹿島市の子どもと全国の子どもの体力運動能力調査)、鹿島市のスポーツについて説明)

- ・昔はどっちかと言うと勉強する子とスポーツする子に概ね分かれていて、近頃は勉強する子がスポーツも優れていて、両方ともしないで何もしないというが増え、それから先生ももっと叱ってくださいと叱り方が昔と違ってきたのかなという話が親御さんからあった。
- ・体罰はダメとなっている中で子どもの躰、指導が難しくなっているという部分はある。
- ・学校の教室の中では言うことを聞かない子どももクラブの監督が叱ればピタッと聞くという話もある。それで連携して、学校の中でしなくていいことをしている子どもをどうにかできないかという話はあった。
- ・確かに練習の後で、指導者の言うことを気を付けして聞いている。何のスポーツでも一緒に、学校にいる時と全然違うような感じは受ける。
- ・そういう面では指導者は大事だっていうことは言える。
- ・先生に対して個別にはうちの子はしてくださいと言うと。
- ・中にはそういう考えでいる保護者もあると思う。ごく一部の人はうちの子に手をあげてというふうな考えの人もある。だから学校の先生達が今非常に難しい状況に置かれているということはある程度理解はできる。

- ・親御さんの中に叩いていいですよという人がいるけど、そうですねという訳にはい
かない。
- ・怒られているのか叱られているのかというのは、多分子どもは分かると思う。
- ・ちょっと気になったのが体力のこの状態はどう思う？
- ・こっちの方が問題。
- ・この項目を見れば、ほとんどが基礎体力という部分。走る部分では上位のところは
ほとんどない。
- ・大体こういう傾向なのか？
- ・県平均より下。
- ・そうするとまず学力の前に体力の問題があるということ。
- ・全国調査の学習状況調査結果とこの体力調査結果は相関関係がある。北東が高く
て西南が低いという傾向。
- ・体力は全国平均よりプラスになっているだろうと思い込んでいた。こういう比較表
を見たのは初めてで驚いている。
- ・県の体育担当も、とにかく学校で運動をさせてくださいということでプログラムを
作ったりしている。それに是非参加してくれと。
- ・多分お父さん達は分かれる。もっと厳しくしていい、学力もしないといけない、い
やちゃんとした人間になってくれればいいと。でも体力は、弱くて良いと言う人は
あまりいない。
- ・しっかりした体になって欲しいというのは99%がそういう考えでいると思う。
- ・これは教育委員会で構造的なのか地域的なのか、分析をして、原因を追及した方が
いいのかもしれない。
- ・学年によってもその時々で違いはある。
- ・差が縮まっていけば良いけど学年が上がるについて差が開いている。
- ・学校の始まる前の15分を色々な勉強をする時間に使っているのを体力面も含め、半
分ずつぐらいにプログラムしていくというふうな方向にも。
- ・最近またラジオ体操をしようという運動が始まっている。
- ・早起き奨励して体を動かすということが必要かも分からない。
- ・ラジオ体操を夏休みにしているけど、昔に比べれば少なくなった。
- ・昔は境内や学校に集まってやっていた。
- ・各区ごとになって、その区の子どもの人数が少なければ各家庭で
- ・子どもが朝登校するときでも学校近くなったらきついと言う。
- ・この前女子の小学生が野球で佐賀県大会で優勝して九州大会に行った。連合チーム
でその良さを発揮したとも言える。今からそういうふうに移っていくかもしれない。

そういうスポーツのあり方についてどういうふうに我々は持つておくべきか。良いと思うかどうか。

- 子どもの数が減ると、今までの少年クラブ、特にチームプレイの場合が編制できないようになって、隣同士の地区が一緒になって一つのチームにというのは既に出ている。今はチーム数が結構あるけど、チーム編制ができないようになって市内で二つや三つになってしまう時代が出てくるかも分からない。
- 中体連の競技でも、他のところでは連合チーム作ってやっている。
- 高校も出てきている。
- 昨日文化の日に西日本文化賞の表彰があって、団体として鹿島市碁聖寛蓮顕彰会が受賞したが、鹿島は文化のまちということの一つの肩書が増えたのかなと思った。
- 今エイブルの床の間で色々企画をやらせてもらっている。鹿島再発見展という取組でそれに該当する地域の人を巻き込むようなムーブメントがおきればいい。
- 最近小中学校のふるさと教育の一環として、例えば伊能忠敬 200 年記念で、とにかく小中学生を取り込んで皆でやりましょうという話をして、少しそういうものに対する地域の前のめりになってくださいというのは動いているのではと思う。
- どこかが火を焚きつけていないとそういうものはすぐに火が消えてしまう恐れがある。息の長い運動なので、スポーツもそうだけど、特に文化活動は種火にしっかり風を送ってないと消えてしまう恐れがあるから、上手いこと機能をさせないといけないという気はする。
- 文化祭は 47 回だった。第 1 回目は鹿島の美術連盟の美術展だった。それがきっかけになって、2 回目からが文連が立ち上がったと思う。その頃から美術館が鹿島にもあればいいねというような話で、一つの美術館を持つというのは鹿島の 3 万人では難しいのではと思う。色んな作品があるが、それをなかなか市民の皆さんが気軽に見ることのできる場というのがないので、色んな建物がある中の一角に展示できるスペースがあるといいなと思う。
- 一番のネックは、管理は誰がするのか、良い絵ほど完全に温度湿度の管理をしないとけない。
- 浜宿スケッチ会は 10 数年になる。先程の地域の協力の話で、3 年ぐらいしたら、他の場所でスケッチ会をしようという計画だったが、浜の協力がものすごい。トイレを貸す、水も提供する、道路の封鎖に関しても地域の方が毎年やられたら困るというような地域だったら続くかなと思うが、よかよかというような状態なので、それで 10 年以上続いている。
- スポーツ少年団で古枝は 5 つも何をしているのか？
- サッカー、剣道、野球、バレー、後ソフトテニス。

- ・スポーツ少年団にはフットサルや水泳が入っていない。最近ではテコンドーが流行っている。
- ・体力調査の結果は社会体育も影響しているかも分からない。
- ・東部中には陸上部はない。
- ・自分達の時まで、長距離を指導する先生がいたのであった。陸上部とその頃は言っていた。
- ・それだけの生徒の数が西部中は作れる数がある。
- ・東部中は団体戦に全部参加できないぐらいギリギリ。
- ・西部中と東部中を比べたら 6.5 対 3.5 ぐらいの生徒の割合。やっぱりどうしても数が行き届かないクラブ活動というのにも出てくるはず。
- ・今からの文化活動とスポーツ活動は子ども達を対象に限って言えば、全体的な数が少なくなってくる中で両立させて充実させていくというのは、非常に難しい問題。
- ・話を聞いたら、どうも今は昔と違って文化活動もスポーツもやるのは同じ人と言う。
- ・昔は勉強部と運動部という表現だったけど、今じゃ活動する人、しない人とそういう区分けになって、言われるとおりのような感じがする。

5 その他

橋村総務部長 どうもありがとうございました。そしたら次回開催ですけれども、テーマはいじめ不登校等安全安心というテーマで御議論をいただきたいと思っていますのでよろしくお願いします。予定としましては 12 月 1 日の 10 時から戦略会議を行いたいと思いますので日程調整方よろしくお願いします。そしたら今日はお忙しい中、時間を割いていただきまして、本当にありがとうございました。これを持ちまして今日の会議を終わらせていただきます。

(15 : 55)

- ・ 次回開催日 12 月 1 日 (火) 10 時 00 分から
 テーマ「いじめ、不登校等安全・安心」